

（公社）日本給食サービス協会会長賞

『給食で広がる友達の和』

鹿児島県出水市立西出水小学校 四年 女子 溝口 志歩

「今日の給食は、けいはんだよー。」
と、友達が言いました。ほかの友達が、
「やったあ。」

と、答えました。私も大好きなメニューでいつも心まちにしている。けいはんは、ごはんの上にとり肉、人参、しいたけ、きんしたまごをのせて、しるをかけて食べるものです。

私の住む出水市は、にわとりを育てることで知られています。だから、きゅう食のメニューにとり肉を使うことが多いです。

ちようどその日は、私がきゅう食当番でした。ごはんをみんな同じりようになるようにつぎました。日直さんが「いただきます」と言うと私は、いつもより大きな声でいただきますと言いました。けいはんを口に入れました。すると、口の中にじわっとおいしさが広がっていききました。みんなもわたしと同じかな。友達や先生の顔をみました。きゅう食のけいはんで私のクラスは、え顔でいっぱいでした。

次の日、パンと牛にゅうとパスタとナッツがきゅう食に出ました。私は、まだ友達になつていないクラスメートがいました。わたしのすぐそばの席でした。そのクラスメートは、きゅう食当番でいそがしくて、自分のおぼんの上のきゅう食がぐちゃぐちゃにっていました。キレイにならべたら気持ちよく食事ができるのになあと私は思っておぼんのきゅう食をならべました。私がしていたことを見ていたクラスメートが

「ありがとう、ありがとう。」
と、何度も言ってくれました。ちよつとしたことで、私の方がうれしくなりました。それがきっかけで、友達になることができました。きゅう食の時間は、友達と同じ時間をすごす大切な時間だと思いました。食べて元気をつけるだけでなく、ふだん話しないクラスメートとなかよくなれる時間でもあるんだなと思いました。きゅう食室にいつて食きをかたづけるとき、いつもより「ごちそうさまでした。おいしかったです。また作ってください」と言う声がしげんと大きくなりました。これから、成長する私達のことを考えて、こん立を考えてくださる先生、きゅう食を作ってくださいる先生、野菜や肉、魚をはこんでくださる人達がいて、きゅう食につながっているんだな。たまに見るトラックにつまれたにわとり、この後、お肉になってしまいます。だから、命にかんしゃして食事をして食べないといけないと思いました。お母さんとお父さんが食事の時、小学校のきゅう食の話をときどきしてくれます。大人になっても、なつかしい思い出になることを聞いていると、六年生まで食べるきゅう食のことが頭の中でずつとのこつていくんだ。そんな力がきゅう食には、あるんだと思いました。これから、きゅう食の時間をもつと大切にして、友達の輪をもつと広げていきたい。